





中世
西史綱紀



有餘年ヲ經テ一千三十一年西州ノ回教帝國
 分崩擾亂シテ國勢振ハズ之ニ由テ歐羅巴半島
 ノ北ナル耶蘇教ノ邦國ソノ疆宇ヲ廣ムルヲ得
 タリ蓋シ西班牙ニ屬スル噶囉人衰亂シテヨリ
 幾バクモナク亞刺比亞人獨立シテ王ト稱スル
 モノ、亞非利加ニ起レリ第十回百年ニ至リ回教
 帝國遂ニ四分五裂シテ許多ノ小國トナル此間
 ノ更迭ハ東國ノ史家ノ記スル所ニ依ルニ國內
 紛擾シテ父母ヲ弑シ兄弟ヲ殺ス等ノ如キ酷烈

晴
 保
 氏
 心
 齋
 齋

ハイスンチン
帝國

ナル所為ノミエテ歴代王侯ノ姓名邦國ハ審
知^{スル}能ハズ蓋シ巨萬ノ人民風土ヲ異ニシ言語
ヲ別ニスレバ各々回教ヲ固信シ其要理ニ著
シ其範圍内ニ留^住セリ此當時回教諸國^布形^狀
ナリキ

此時ハイスンチン帝國尚存立スト雖氏己ニ
衰弱^抑腐^敗ニ歸セリジボン曰クバイスンチン帝
國ハ^如地^居安^安ニア^ンノ時ヨリ^漸ク昔日ノ^形體^運
ヲ失ヒ衰滅ノ勢カハ進歩ノ勢カニ勝テ刑政教
法ノ抑廢ハ弊害ヲ生シテ爭亂ノ端トナレト

蓋シハイスンチン國漸次ニ歐洲西部ノ諸國ト
隔離シ^安和^危ニ關係スルモノハ獨リ當時諸
國ヲ卒畧シテ^中細^亞ヲ奪ヒ居邑ヲ^君士^坦行^行
堡ノ近傍ニ占メタル^中刺^比亞^人アルノミ然レ
氏第十回百年ノ末ニ^證ン^テニセホラス^シミサ
ス及ヒバシル二世ノ諸王少シク威カラズ
^中刺^比亞^人ヲ驅逐シ^中細^亞ノ地方ニ於テ^ハバ
サンチン國ノ經界ハ西ノ方^ニ至リシガバシルノ
東ノ方^ニ至リシガ^中細^亞ノ東疆ニ至リシガ
死後二十有餘年ヲ經テ土耳其人始テ^ハバ
イスンチン

千シ國王ノ柔暗^弱乘シテ邊ニ侵撃ス、^但土耳
 其ハ韃靼ノ一新種ニシテ、回教ヲ信奉^ス、^{人種}ノ居
 邑ハ元來支那ノ北疆ニ沿ヒ、東海ノ外ニ在ルモ
 ノナリ、一千五十年ソノ元帥トグラル兵ニ將ト
 シテ、バイサン^ン國ニ^侵入^ル、耶蘇教ヲ奉ス^ル者十
 三万人^人、民之カ^為殺^ス、トグラル子アル
 プ、アルスラン、^猛獅^ト喚バル、^豪勇^ガモ^ノア
 リ、^惹再^日亞^ス、^亞爾^彌亞^マヲ降シ、バイサン
 チンノ帝ロマナス、テラヤネスト戰ヒ之ヲ擒ニ
 ス、^此後土耳其歷世君主相尋テボスポラスヘ

黑勒斯盆

ルレスポント以外ノ諸州ニ捷テ之ヲ取レリ、
 我レ眼ヲ西方^カ轉^シテ、カルロビンシアン^ノ三
 王國、即チ^以太利^日耳曼^高爾^南ノ事迹ヲ觀^ル、^此諸^國
 強國ノ已ニ衰滅ニ趨キ、^高爾^南以^見、^以太利^ニ
^此諸州ノ侯伯及ヒ諸將帥ノ推勢遠ク君主ノ
 右ニ出ラソノ官職ヲ世傳シ、各自威カラソク、^果
 内ニ振ビ、一個ノ君主トナリ、常ニ帝王ノ推柄ヲ
 妬ミ、^且己ノ特權ヲ失ハシムラ、^帝ノ人民ヲ
 諸侯伯ノ廢政ヨリ救ハントスル毎ニ、コレヲ時
 トシテ叛ヲ起ス、第十回百年ノ始ニ諸侯伯フリ

以本利ノ
形態

日耳曼
形態

和ノ諸小國、^{ドニ}滅^{ニス}、^{スビ}畢^撒、^セ如^キモノ、
各々其城市ヲ閉^ザ自^ラ政府ヲ立^テ、^熱羅馬^教皇若
クハ、貴族及ビ帝王ノ命令ヲ奉セザルニ至ルコ
レ、中古^ノ最^中ナル時代ニ於^テ、^意以太利^擾亂ノ景
状ナリ。

日耳曼國ハ第十回百年ノ始ニ於^テ、^カカルロ^ロビン
ジ^アノ^統末裔ナル幼主、^路路易^第四世^ノ後ニ在
テ、^廢ク、^匈匈牙利人ノ為ニ襲撃セラル、^邦國又分裂
シテ、^サ撒^遜ニ、^ネサ^リンジ^ア、^フ佛^郎哥^尼亞、^ア巴^威里^亞
リア^ソウ^ビア、及ビ、^ロル^レン^ノ六侯國トナリ。

各自ニ爭競シテ、^十個獨立ノ國、^如シ、^蓋シ、^公侯
ハ、^元末^帝王ノ輔弼及ビ代理ト稱セラル、^ハル、^ル
ノ^ナル^ハ長ク、^王権ヲ專有セシヨリ、^其柄^威愈^々、
盛ニ十時博得シテ、^其官^職ヲ子孫ニ相傳シ、^尋テ
王家ノ歳入ヲ奪^ヒ自^ラソノ管^邑ノ君主ト
ナレリ、^九百^十一^年、^路路易^第四世死シ、^諸公^侯共ニ
正統ノ嗣君ヲ廢シ、^其黨^與ヲ^佛郎^哥尼^亞、^ア侯[、]コ
レ^ドヲ^撰立シテ、^王トナス、^シレ^ドト、^位ニ在
ル^ノ、^七年、^或ハ^匈牙^利ノ采^辰ヲ防^ギ、^或ハ^諸侯ノ
叛^動ヲ征シ、^一生^兵馬ノ間ニ從事シ、^九百^十八^年

ニ死ス、撒遜侯、顯理第一世、尋テ王トナリ、此後其族統王位ヲ継グ、一百年許然レ、日耳曼ヲ統轄スル撒遜統ノ君主ハ固ヨリ查理曼ノ如ク、大國ニ君臨スルニ非ズ、唯諸侯ノ首長ニシテ、稍國權ヲ得ルモノナレハ、自他ノ諸侯ハ、依然其政法ヲ以テ、其管國ヲ治メ、能ク王命ニ從フモノナシ、故ニ當時、日耳曼帝、尸位虚王ノ事跡ハ、只日耳曼人民ノ歴史ノ小部分ヲ占ムルノミ、

佛蘭西國ハ第十回百年ノ始ニ於テ、王權ノ勢力ヲ減スル、日耳曼ヨリ甚シ、帝查理スハ、副名ヲ

シムフル、純義ト云フ、徒ニ天子ノ虚器ヲ擁スル

ノミ、**高爾**ニ於テハ、ロルレーントランスシラリ

シバルガンダプロウエンスウリタネイノ四侯、僭號シテ王ト稱ス、其他富強ナル公侯モ、方隅ニ

割據シ、各々一國獨立、政ヲ成セリ、終ニ九百二

十年、諸侯會同共議シテ、查理スヲ廢ス、此後、查理

斯猶尸位ヲ守ル、三年許、人民モ貴族モ、能ク其

存立ヲ知ルモノナカリ、トナリ、

第十回百年ノ代ニ當リ、佛蘭西ノ歴史ハ、北人ノ

ニ、トストリアニ移住シ、諾曼的ヲ創立スルヲ以

佛蘭西
形態

ニ最要點ナリトス九百十一年、當時勇威ヲ以
テ、歐洲西方ニ其名ヲ馳タル、諾耳曼ノ督將、ロロナ
ル者、艦戰艦ヲ以テ、セイン河ニ翔リテ、佛京巴
黎ヲ攻ム、查理斯、乃チ和ヲ乞ヒ、之ニ餌ヤルニ、
且、佛蘭西王國中ノ一大州ヲ以テ、ロロナニ與ル
約スルニ、自他國中ノ諸邦ヲ奪掠スルナク、佛王
ノ政令ヲ遵守シ、且、其臣下ト共ニ、并然、耶蘇教ニ
入ルベキヲ以ラス、ロロノ直ニ之ヲ許ス、
因テ、佛蘭西ノ州郡、嚮ニ諾耳曼ト為テ、暴掠侵奪
セラレ、モノヲ以テ、冬クロロノ口ニ與テ、是ニ

於テ、多年狂暴ナル勇士、今ハ、盜竊鹵掠ノ醜行ヲ
停メ、酋長ノ撫育ニ依リテ、皆田地ヲ耕耘スルヲ
務メ、以テ佛蘭西國中ノ至善至勇ナル人民トナ
レリ、蓋シ、西日耳曼、哥爾及ヒ、英倫ノ人民、諾耳曼
人ノ爲ニ、侵掠殘滅セラレシ、一、百年ナリシガ、
此時ニ至テ、其禍始メテ止ムト云フ、
查理斯セ、シンプルノ死後、佛蘭西ノ貴族ハ、獨巴
黎侯、ニ最メテ富強ニシテ、カリロビシ、アシ
朝ノ末ニ、於テ、私ニ王權ヲ專有スルノ勢アリ、
九百八十九年、查理斯五代ノ孫、路易第五世死シ

巴黎侯武額加領ホウカペントソノ從臣ノ為ニ推戴セラレラ
 レームスノ寺院ニ於テ僧侶禮ヲ行テ王冠ヲ加
 フサレ氏巴黎以外ノ國民ハ此選立ヲ拒ミ此後
 三四世ノ間武額加領ホウカペントノ子孫ニ事フルヲ肯セ
 ス諸貴族尚舊ニ依テ王權ヲ專有シ諸侯各ソ
 ノ威柄ヲ州内ニ行フ蓋シ武額加領ホウカペントノ時ヨリ
 路易第十四世ノ世ニ至ル迄佛蘭西ノ王權地ニ
 墜テ帝王ハ徒ニ虚器ヲ擁スルノミ之ヲ永久王
 位空缺ノ時代ト云フ
ラレケナム

第二章

封建政治游俠武士及ビ十字軍ノ記

封建政治

中古ノ中史ニ當リテ歐洲西南ノ形状ヲ見ルニ
 カルロビンジャン朝ノ雅勢衰微シ其血脈断絶
 シテ天下ノ形勢一變シ國內分崩シテ富強ナル
 公侯各々其封邑ニ割據ス國法ノ勢カハ已ニ消
 滅シ貴族ハ盡ク束縛ヲ脱シ迭ニ抗争ヲ事トシ
 其臣隸ヲ抑壓シ且君主ニ忠節ヲ尽ス所カ如キ
 者以テ實ハ之ヲ奴僕視テ蓋シ人間社會ノ斯
 少暴烈如此趨キシガ即テ蠻夷ノ羅馬世界ヲ侵掠蝕奪
 セシノ後文明ノ種子始テ萌芽スル基源ナリ

而、其發生^{タルヤ}、全^クカ^ルロ^ビン^ジア^レ王朝^時、
族ヲ抑壓制御ヒシガ為^ニ、^由封建政治^{進歩}、^{妨礙}セラレ^ルガ、佛蘭^西、
西、日耳曼、^以太利、ノ王権漸ク式微スルニ隨^ヒ、^夫進^歩、
歩ノ気運^意活潑飛動シ、^唯リテ、第十回、百年代ノ
末ニ迄^テ、^終レ^ル、封建政治ノ名ヲ成^シ、ソノ政治、
^勢ヲ得^ル、^ヤ、^第十三回、百年代ノ末ニ至^ル、蓋シ、此間ノ
時代ハ、中世ノ歴史家タルモノ、且シク注目ス
ベキ最^モ要^要點ナリ、故ニ簡畧ニ封建政治ノ體裁ト、
ソノ始終ノ情實ヲ記シ、以テ此政史ヲ説明スベ
キナリ、

羅馬政府ヲ顛覆シタル人民ソノ攻奪シタル土
地ヲ分ナラ、其半ヲ舊主ニ與ヘ、^半ハ^各自^以取^レリ、
然レ氏當時歐洲全國暗昧ニシテ、青史ノ以テ記
スル^ニ、^由ナキガ故ニ、其分割ノ方法原理ハ、如何
ナルヤ、羅馬ノ州郡ハ、如何ナル形状^{ナルヤ}、
シヤ^ク精細ニ知ル能ハス、只之ヲ概言スルニ、國
主或ハ一國ヲ伐^キ、之ヲ取^ル、^時ハ、^其全^ク功^ヲ保^全、
セントス、^為之^ヲソノ臣下、^頒與^シ、且ツ、約スル
ニ、^緩急^ニ、起ル時ハ、命ニ應シテ、兵ヲ出スヲ以テ
ス、蓋シ、血税ハ土地ヲ交付セシ時、初メテ結ビタ

ル單獨ノ條約ナリ
國主敵地ヲ取り先ツ之ヲ其功臣勇士ニ與ヘ功
臣勇士亦其法ニ倣テ之ヲ其親臣武卒ニ與フ斯
ク^{サカ}テ上ニ國主ヨリ下モ卒伍ニ至ル迄各順
次ヲ以テ此法制ヲ用ヒ賤卒ハ先ツ大臣ノ旗下
ニ集リ大臣之ヲ以テ國王ノ麾下ニ集ル而シテ其
兵數ノ多寡ハ一ニ食邑ノ^大廣狹ニ由ル
蓋シ始メテ土地ヲ軍將ノ中ニ分與スルヤ之ヲ
私有世襲ノ地トナシ父之ヲ己ノ遺產トシテ子
ニ傳フ又別ニ皇家ノ邑トテ國君ノ扶助ニ供シ

ソノ職掌ニ報スルモノアリテ侯國^地伯^領士^士ニ扱マ
ルコレヲ或ハ世襲トナシ或ハ一生^祿祿トナシ或
ハ年限ヲ以テシ或ハ自他各種ノ條約ヲ以テ其
寵臣ニ與ヘ時ニ多ク州郡ノ守令ニ與フ守令又
之ヲソノ臣下ニ割與ス諸士土地ヲ受ケタル者
若シ條約ニ悖リテ軍役ニ從ハズ或ハ定規ノ租
稅貢賦ヲ獻納セサレハ乃チ其封邑ヲ國守ニ奉
還セシム蓋シ^ヒドナル詔ハ委任スル產業ト
云フ^フニテ^ヒダ^ルシステム^封建^トハコレヨ
リ出ラタルモノナリ

此政制初ノ查理曼ノ代ニ於テ己ニ佛蘭西ニ創
立セシガ尚ホ完全ノ狀ヲ成サスサレ^法氏查理曼
王権ノ^漸陵夷シテ貴族ニ移ルヲ惡ミ百方ソ
ノ権柄ヲ殺ガント謀ル諸州ノ公侯死ハスレバ
其國ヲ絶滅^滅シテ復興立マシメズ裁判ノ権ヲ地
方官吏ノ手ヨリ奪テ之ヲ其親近ナル巡察法吏
ニ付シ僧侶^{ヲ尊}ノ^尊ヲ^尊嵩^テチ貴族ノ^權ニ^抗常備
兵ヲ設置シテ漸ク諸侯ノ兵役ヲ遠ガク是ヨリ
後貴族兵馬ノ勞ヲ忘レ王國防禦ノ務ヲ指テ終
ニ^{自個}ノ身ヲ擁護スルノ策ヲ失フニ至ル然レ

ル第九回及ビ十回百年ニ至リテ王権全ク地ニ
墜テ諸州郡^廢ノ諾身曼及ビ匈牙利人ノ為ニ暴
掠セラルレ氏政府敢テソノ國民ヲ保護スル^由
由^術ナキニ^迄諸公侯ハ自^個ノ富豪ヲ以テ^僱
能ク及ガバカラサル防禦安寧ノ術ヲ成シ自
ラ城壁ヲ築造シテ之ニ據リ常ニ身體ヲ訓練シ
テ腕カシ長ジ甲冑ヲ被リ一人以テ平民^百
ニ當ル^勢得^勢斯クテ諸國ノ守令世ノ騷亂ニ乘シ
私ニ公侯^由ノ名稱^稱ヲ僭シ以テ自ラ政廳ヲ立^勢
君権ヲ取り之ヲ子孫ニ世襲^シ只國王ニ服ス

ルノ名義ヲ保ツノミ
土地主即チ地ノ權利ヲ以
レ或ハ國王即チ封建ノ為ニ強奪セラレ、ウノ状
態、食邑ヲ借耕スルモノニ異ナルホトニテ常ニ暴制ニ
被シ、レハ國法ノ以テ其災害ヲ救フナク、王權ノ
以テ其權利ヲ保スルナク、進退窮蹙シテ、壓制ニ
屈踏ルル外身ヲ安シズルヲ難ナキニ至リ止ム
ヲ得ズ、身ヲ質シテ保護ヲソノ國主ニ乞フ、第十
回、十一回、百年ノ間ニ佛蘭西、日耳曼、以太利、私
有地多ク、ソノ國主ヨリ賜與セラレ、終ニ又封

建食邑ノ借地法ヲ奉スルニ至ル蓋シ、此中十二ハ
自主ノ權利ヲ以テソノ土地ヲ領スルモノ、
ト、
多クハ亦其時勢ノ變ホレムヲ得ガレ、
身ヲ委セリ、
是レ第十回、十一回、百年ノ間、封建政治ノ完全ニ
趨キシ時、歐洲各國ノ形態ナリ、臣下君主ニ服事
シ、其職掌ヲ盡シ、保護ヲ蒙リ、各種ノ條例申ニ就
テ、扶助金ナルモノアリ、封邑ヲ世襲スルノ報
トシテ、之ヲ君主ニ出ス、譬ヘハ、臣下若シ己ノ食
邑ヲ他人ニ賣ル時ニハ、罰金ヲ出シ、或ハ怠惰度

ヲ誤リ、或ハ嗣子ナキ時ハ、食邑ヲ奉還スル等ナ
リ、其^他君士ノ長男、勳爵士トナリ、或ハソノ長女
婚禮シ、或ハ君主、外國ニ囚ハル、時、金ヲ出シ
テ之ヲ贖フガ如キ、是ナリ、或ハ借主^即臣下、幼
稚ニシテ家ヲ治ムル能ハザル時ハ、君主之ヲ輔
翼シ、以テ自ラ臣下、食邑ノ歲入ヲ取ル、或ハ君主
ソノ幼女ノ為ニ、臣下ヨリ夫婚ヲ選フ時ハ、婚禮
ノ費ヲ出サシム、蓋シ此奴隸ノ属役ハ、查理曼ノ
時^新夢想セサルモノ、此時始メテ極盛ノ勢ヲ成
シ、畢竟富強ハ、貧弱ヲ抑壓スルニ至ル、

封建政制ハ、ソノ完全ノ形状ニ至^至テハ、抑壓ノ政
治ニシテ、四海兄弟ノ大義ト、人間同等ノ推理ヲ
破却スルモノナリ、蓋シ諸侯ノ連衡ハ、元ト外敵
ヲ防禦スルノ保障^{ナリ}ト、王室ノ綱紀コレガ
為ニ衰弛シテ、諸侯各々カヲ爭ヒ、天下騷亂ノ端
ヲ開キ、人間社會上ニ慘淡^粗ナル形態ヲ生シ、諸
侯ハ之ガ為ニ、許多ノ利益ヲ占ムルト雖、歐羅
巴全洲ノ人民、封建政治ノ奴隸トナリ、不學無文
ノ淵ニ沈ム、三四百年、學問藝術ハ、只寺院ノ中
ニ限住シ、ソノ影響ハ、抑壓紛亂ノ中ニ消滅シ、帝

王及ヒ、卿相ハ、自己ノ姓名ヲ記スル能ハズ、僧徒
ハ、朝夕徒ニ禮拜文ヲ朗誦スレトシ、ソノ文意ヲ解
スル能ハズ、當時耶蘇教ハ、^{恰モ}燈光ノ薄クモテ、ソノ
心ヲ^赤翳ルヲ要スルガ如キノ時ナルニ、却テ狹窄
ナル異説ニ陥リ、天下ノ事物皆暗世ノ名號ヲ、此
時代ニ蒙ラシムルニ至レリ、然レ氏獨立不羈ノ
氣象^赤、^赤諸侯ノ權ニ誇リ、カク恃^赤、各自ノ利
益ト、職掌トヲ、思フニ由テ、文化開明ノ^赤光輝終ニ
騷亂ノ社霧ヲ驅除シ、清世ノ道ヲ勸奨スルノ具
トナレリ

俠勇ナル
武士

四海混亂シテ、各耕戦ヲ以テ、邦土ヲ開拓スル
逆暴邪ハ、全州ノ習俗トナシ、^赤間ニ、俠勇ナル武士アリ、
精神ハ、廢制ノ舊風ヲ破リ、積年野蠻ノ陋習ヲ
去リ、^赤最貴最重ナル一^赤種特別ナル氣象ヲ社會ニ
精神^赤、^赤蓋シ、武士ノ規則法例ヲ設ケテ、兵制ニ
入りタルノ歲月ハ、^赤後世^赤詳密ニ知ル能ハサレ、
蓋シ、第十回、百年代ノ末ニ、^赤臨^赤、封建政制ノ潰裂
シテ、収ムベカラザルノ勢ニ至リシ頃ニ於テ、始
メテ之ヲ^赤見^赤出^赤ルモノトス、此時ニ^赤當^赤リテ、^赤諸侯慈愛
ノ精神ト、教法ノ熱心トニ激セラレ、天下ノ形勢

日々ニ衰殘ニ趨クテ慨嘆シ、教法ノ保護ヲ首
唱シテ、軟弱ヲ強暴ノ廢抑シ、救ヒ、正道ヲ邪曲
ノ向テ護セントスル、王誠ナル目途ヲ以テ、與
ニ盟約ヲ結ベリ、
依勇ナル武士ノ精神ト其法則、忽チ社會ニ背
叛、詐偽ハ人ノ賤ヲ所トナリ、謙讓豪俠ハ、當時ノ
德義トナル、武士、腰間ニ一劔ヲ帶ビテ、以テ非常
ノ變ニ備ヘソ、衆庶ノ為ニ尊重セラレ、王帝
王ヨリ是レ武士、亦之ニ由テ清新ナル勇氣ト純
良ナル品行ヲ増シ、ソノ精神ハ到スル所、終ニ非常

勳功ヲ奏スルニ至ル是ニ由テ、諸侯ハ城邑ヲ棄
テ、農夫ハ廬舍ヲ捨テ、以テ一家親族ノ聲譽ヲ保
シ、盟約ノ神聖ナルヲ守ラントス、ソノ感覺ハ下
人民ノ腦髓ニ浸染シ、奴僕ハソノ勞役ヲ忍ビ、甚
痛ニ堪ヘ、諸侯ハ身ノ災害ヲ犯シテ、虐安ナル天
上ノ福祉ヲボメント欲シ、農夫ハ是ヲ以テ諸侯
ニ親付シ、諸侯ハ是ヲ以テ帝王ニ親付ス、蓋シ、依
勇ナル武士ノ根理ハ、半開世界ノ弊習ニ抵抗ス
ルノ器トナルモノナルベシ、
依勇ナル武士ノ行状ヲ細記スレバ、ソノ謬誤少

奉行

ナカラズト雖氏ノ氣象ハ人間本然ノ寛格ナ
ル度量ヲ備ヘタリト謂フベシ言語ヲ忠信ニセ
ヨ孤獨貪乏ヲ助ケヨ軍ニ臨シテ敢退ク勿レ
此語初メテ武士ノ籍ニ入ルモノ、誓文ナリ、時
暗昏卑屈ニ際シテ、武士婦人ノ性質ヲ洞知シソ
ノ徳ヲ貴重愛敬シ、之ヲ崇拜ス、ハラム曰ク、上帝
ト婦人トヲ敬愛スルハ、當時人間ノ常職ナリト
是ヲ以テ人能ク婦人ヲ敬愛シ、之ニ誠信ヲ盡セ
バ、永世救護ヲ受クルト信セリ又當時ノ史氏ノ
説ニ據ルニ、武士ノ性質ハ、熱心ニ交ユルニ純良

ヲ以テシ、蠻風ノ情欲ヲ碎キ、花亭朝陽ニ向テ開
クガ如ク、寛大ノ心ヲ以テ、美麗ナル榮譽ヲ顯ハ
スヲ教ヘ、以テ戦闘ノ殊暴ヲ和ガト云フ、武士ノ
法制次第ニ確定スルニ及シテ、ソノ風習ト性質ト
トヲ記スルハ、以テ當時ノ世態ヲ知ルノ一要點
ナリト雖氏我レ今之ヲ縷述スルニ、追ナキニ由
リ、聊カソノ趣意ヲ畧記スルノミ、蓋シ、依勇武士
ハ、元ト軍吏ニ関スルモノナルガ故ニ、其夥伴員、
悉ク軍士ヨリ出ヅルト雖、此時、西羅馬版圖ノ
舊民ハ、大抵、蠻夷酋長ノ奴隸トナリ、之ヲ為ニ役

属使
セラル、ニ由リ、只歐洲北部ヲ征服スル勇者
ノ子孫、外之ニ加ハ、ルモノナカリキナリ
日耳曼ノ少年、武事ヲ練習スル、ハ、往古ノ時代
ヨリ、嚴格ナル常式ナリ、依勇ノ精神、武士ノ創立
シ、戰國ノ高貴勇猛ナルモノ、聚合所トナリシ
ヨリ、國中ノ少年、擧テ武士トナル、ヲ以テ、一生
最高ノ目途トナス、凡ソ、人、武士ノ階級ニ入ラシ
トスルモノハ、先ツ武藝ヲ習ヒ、筋骨ヲ勞シ、又宗
教及ビ舉措動止ノ如キ、各種ノ教訓ヲ受テ、尋テ、
断食、連夜ノ行ヒ、後ニ武士トナルノ禮儀ヲ行ヒ、

是ニ於テ、甲冑ヲ被リ、馬衣ヲ着ケ、危險ヲ犯シ、假
戰ヲナシテ、腕カヲ強フシ、或ハ他國ニ歴遊シ、以
テ他國ノ武士ト馬上ニ槍術ヲ試ミ、且武事ニ関
スル各種ノ學術ヲ研究スルヲ勉ム、然レ、武士ノ
游行シテ、戰士ト稱シ、邪曲ニ向テ、正道ヲ保スル
モノ、終ニ惡人ヲシテ、口ヲ藉テ、惡事ヲ行ナハシ
メ、目途ノ邪正ヲ問ハズ、危險ヲ犯ス、ト愈々深ケ
レバ、ソノ名譽愈々高キニ至ル、是レ依勇ナル武
士ノ弊害ニシテ、其舊精神ヲ失ヒシナリ、
初メ、武士ノ職アルハ、獨リ哥爾ノミナリシガ、第

高爐

十一回百年代ノ間ニ至リ、盡ク、ノ近鄰諸國ニ蔓延ス、西班牙ニ於テ、耶蘇教徒、嚙囉人ト不和ヲ生シ、ノ戦闘ハ、未曾有ノ武勇ヲ顯ハシ、武官ノ職制已ニ撒遜人種中ニ成レリ、傳ヘ云フ千年代ノ始ニ諾曼ノ武士、隊ヲ成シテ、耶路撒冷ニ靈^參詣^拜シ、歸ルニ臨ミ、途ニ一小都ノ^亞刺^伯兵^士ニ圍マル、ヲ見、宗教ノ熱心自ラ抑ユル能ハズ、之ヲ救ハント謀ル、以太利人此時初メテ武官タルモノ、アルヲ知レリ、封建政制ノ^漸次^に歐洲全土ニ波及スルニ及シテ、武士ノ職制亦之ニ次^にガ^リノ氣象^談

十字軍ノ
原由

ハ宗教ヲ篤信スルニ由リテ十字軍ヲ起ヌニ至ル、我今數回ノ宗旨合戰ニ於テ十字軍ノ權勢ヲ獲タル所以ヲ記スベシ、
耶路撒冷及ヒ自餘神聖ノ地ニ靈^參詣^拜スルノ往古ヨリ教會ノ常禮ナリシガ、降テ第十回百年代ノ末ニ至リ、世界ノ極尾近キニアリトノ説、四方ニ沸起シ、人心動搖シ、日々ニ恐懼ヲ増シ、享^フヲ^シ香^拜ヲ事トス、是レ蓋シ、黙示録第十二章ヲ誤解スルニ根^サス^ルモノニテ、一千年ヲ過グレバ、鬼魅諸國民ヲ欺騙シ、之ヲ聚合シテ、耶路撒冷ニ向テ

戰ハシ^ル後暫時ニシテ欺騙者ハ兵^{カス}天火ノ
為ニ焚^ル滅セラルベシトノ風報道路ニ喧傳セシ
ガ凶^ク載^ル下^ルキ一千年ハ無事安穩ニ消過シタリ
シニ猶ホ妄想人民ノ胸裡ニ浸深シソノ禍災ヲ
免レント欲スルモノ争フテ東國ニ靈^ヲ禱スル下
水ノ下ニ^{就クガ如キ}執ナリ
初メ第七回百年代ノ中^ニ世^ニバ^レ勒^ス士^登土耳
其ノ為ニ奪ハレシヨリ後耶蘇教徒ノ耶路撒冷
ニ靈^ヲ禱スルモノ之カ為ニ各種ノ凌辱殘害ヲ蒙
リ歸國ノ後ソノ艱楚痛苦ノ状ヲ仔細ニ陳述セ

シカバ歐洲各國皆為ニ驚愕憤懣セリ中ニ就テ
アミ^ンスノ土人^{彼得}ルセヘルメ^一波連斯
^聖蹟^ヲ耶蘇教徒ノ凌辱セラルヲ見テ之
ヲ救ハント^テ月^ヲ費^セシ^カ歸ルニ及ンテ大唱シ
テソノ慘刻ナル状態ヲ公布シ怒^聲ヲ^發シ^テ民
ニ説クニ同心協カシテ異教者ヲ驅除シ救主ノ
寺領ヲ清ムルハ正教世界ノ職掌タル所以ヲ以
テマ^シ當時无^双ノ^好辯家ナル羅馬教皇アルバ
^ノ第二世深クソノ説ニ允祖シプラセンシア及
ビクレルモントニ於テ大會議ヲ開ク^ト二回僧

第十四十字

侶千人、數千萬人ヲ會合シ、逆徒討滅ノ策ヲ陳セ
過シ、身體ト家産トヲ質シテ、十字軍ニ從ヒ、以テ
異教者ノ耶路撒冷ヲ奪セタルモノヲ討ントス、
是ニ於テ、熱心ノ勢焰、耶蘇教國ノ歐洲ニ蔓延シ、
クレルモントノ會議ハ、一千九十五年十一月ニ
在リ、翌年ノ春ニ至リテハ、人民精粕渣滓、如
白癡無賴、男女老幼ヲ問ハス、職業ノ別、
異ナルヲ論セテ、共ニ十字軍ノ一巨隊ヲ成シテ、
向テ進ムニ至レリ、

波レ、ス、
巴、
通、
新、
士、
登、

ウオルトルゼペンニ、一レツス、嚮導トナリテ、
トルゼヘルメットニ從フ、然レモ、ソノ軍士皆野夫
蠻民ニシテ、順序規律ヲ奉セズ、過グル所、州郡
ヲ殘暴ニ行フ、君士但丁堡ニ至ル比ニハ、死傷略
盡キ、其免レテ、小亞細亞ニ達スルヲ得ルモノ皆
土耳其人ノ為ニ殺戮セラル、蓋シ幾億万ノ十字
軍士教法ニ執迷シ、猶太教、異教ノ差別ナク、ソノ
救主ニ背叛スルモノヲ、芟除スルヲ以テ、己ノ職
掌ト思ヒ、放恣暴亂ヲ極メケル、故ニ、南日耳曼及
ビ、匈牙利ヲ經過セン時、ソノ土人怒リテ、之ヲ鏖

殺ス此役ニ十字軍士ノ死スルモ三十万人ナ
リ然レモ此蹂暴ナル軍士速ニ灰滅ニ歸セシヨ
リ歐洲武士ノ花^{美ナル}十字軍士ノ精兵踵テ起
リ當時ノ名將ブーロンノゴッドフリー之が將ト
ナリ其他六勇將之が副トナリ六大隊ヲ具シテ
或ト道ヲ以太利及ヒ^{アト}無得^リ亞的^チ海ニ取り或ハ夕
ニユーフラ河ニ取リテ君士但丁堡ニ至ルソノ軍律
嚴肅行陳和穆ニシテ秋毫モ犯サス嚮ノ蹂暴ナ
ル十字軍士ニ比スレバ雲壤ノ異アルガ如シ
初メ君士但丁堡ニ在ル希臘帝アレキシウス異

教ナル土耳其人ヲ討ント欲シ數ノ卑詞ヲ以テ
援ヲ十字軍士ニ請ヒシガ今ハ土耳其人外事ニ
関涉シ希臘ノ經界ヲ侵抄セサルニ由リ希臘帝
急ニ意ヲ變シ十字軍士ノ列ヲ成シテソノ州内
ニ入ル^{其兵}テ^殺觀^テ密ニ詐謀詭計ヲ用テ十字軍ノ
數ヲ殺シソノ目途ヲ妨ケ敵將ヲ誘シ己ニ服
從セシメトス是ニ由テ十字軍中一二ノ將帥
或ハ之が為ニ餌セラルモノア^{然レモ}餘ハ皆ナ
憤怒シテ之ヲ拒ミ戰時ニハ獨立ノ地位ヲ占ム
ルヲ決セリ既ニシテ十字軍士ノ諸隊遂ニ無細

至ルニ及ンテ希臘帝國ノ耶蘇教徒歐洲ニ
在リテ叛服常ナラス十字軍士ノ爲ニハ土耳其
ニ愈レル強敵ト謂フベキナリ

諸道ノ十字軍小細臣買諾於テ會合シ彼得トルゼ
ヘルノットニ從ヒタル衆庶亦來附シソノ戦士甲

冑ヲ被ムリタルモノ凡ソ六十万人ソノ中ニ勳
爵士二十万人アリ進シテ土耳其ノ帝城ナルビ

シシラニ在ルナイスニ於テ始メテ土耳其ノ兵ト
會戰シ之ヲ圍ム二月土耳其帝ソリマシ百計

防禦利アラズシニナイス城降ル十字軍又ナイ

ス城ヲ出テソリマシトドリムノ近傍ニ戦テ
之ニ捷チ又進ム五百里荒蕪ナル田畦ト寥落

タル城邑ヲ過ギ小細臣買諾ヲ横行セリ
其後ア安シチラ安ク役ハ頗ル苦戦ニシテ兩軍死

亡スルモノ甚多ク十字軍ノ進路之ガ爲ニ扼セ
ラレソノ兵數今ハ減シテナイス城ヲ圍ニシ時

ノ半トナリ殆ンド勝利ヲ失ハントセシガ西里
亞人内應スルモノアルニ因リテ城遂ニ降ル時

ニ一千九十八年六月ナリ十字軍已ニ勝ヲ獲數
日ニシテ羸億飢渴ヲ極メカバ三十万人ノ土耳

其波斯ノ兵之ヲ時ト云、精銳ヲ盡シ、来リテ之ヲ圍ハ、サレヒ十字軍士、猶ホ餘銳ヲ集メ、且ツ其神明ノ必ス已ヲ助クルヲ信シ、殊死シテ城中ヨリ突撃シ、一日ニ敵ヲ大軍ヲ破リ、其敵軍ヲ逃走セシメタリ、

アンチヲクノ役未ダ終ラザルニ、土耳其ノ侯列イグリス河外ニ内亂ノ起ルニ會ヒ、空シク、時日ト資糧トヲ耗損セリ、間、埃及王、土耳其國ノ疲弊ヲ見、ノ機會ニ投シ、己ノ舊領邑ヲ恢復セント欲シ、耶路撒冷ヲ圍シテ之ヲ取り、十字軍士ニ

請ヒ共ニ衆ヲ并セ、波連斯坦全國ヲ征服セント謀リ、ソノ其意蓋シ、獨リ勝利ヲ專ニセント欲スル、奸計ニ出ルヲ知リ、十字軍ノ元帥直ニ堅剛不撓ノ語ヲ以テ答ヘテ曰ク、敢テ耶路撒冷ヲ奪フモノハ、何國何人ヲ論セス、皆我ガ敵ナリ、我當サニ救主ノ劍ヲ以テ、耶路撒冷ニ勝テ、救主ノ劍ヲ以テ之ヲ守ルヘドト、

十字軍ノ兵、今ハ概シテ五萬人トナリ、一千九十九年五月、アンチヲクヲ出テ、耶路撒冷ニ向テ進ミ、又進シテ、マオントリバナス、及び海濱ノ間ニ

至リトホリシドシタルアケルレシサリ
アノ如キ土耳其ノ諸小國ニ道ヲ假リテ傲然横
行^セ但^シ此諸國ハ當時局外中立ヲ約セシモノ
ナリ已ニシテ十字軍終ニ耶路撒冷ヲ破ルニ及
ンテ^テ歡喜ノ熾心乍々各人ノ肺肝ニ貫徹シ往白
ノ艱難勞苦ハ夢ト與ニ消エ耶路撒冷ノ名ハ聲
ニ應シテ返響シ或ハ天ヲ仰テ叫號シ或ハ地ニ
俯シテ祈禱シ或ハ高聲ニシテ泣^感涕シ或ハ倒伏
シ沈黙シテ地ヲ履^北手ノ舞ヒ足ノ踏ムヲ知ラ
ザリシカ邊ニ異教者ノ耶路撒冷ヲ奪フヲ見^歡歡

喜^極極^クル^處變シテ^怒怒^情ナリ^卒然^憤憤^起シ
テ衆ヲ集メ一時ニ城ヲ圍ミシガ城兵防^戰頗^ル
強^別別ニ攻撃ノ好手段ヲ要スルニ至レリ
圍城中終始ノ事由ヲ詳記スルハ徒ニ冗長ニ涉
ルニ由リ爰ニソノ畧說ヲ奉ル^ニ十字軍士耶路
撒冷ヲ圍ム^{四十日}ニシテ之ヲ降シ七万人ノ
回教者血^市市中^石石上ニ洒ゲリ蓋シ十字軍
士自ラ醜^{ナル}ナル異教者ヲ斬滅セバ上帝ニ^奉奉^仕仕
スルノ道タルベク若シ異教者ヲ愛憐セバ宗教
ノ罪人ナリト^思想^殘殘忍刻薄敢テ許ス所ナ^レレ^戰戰

争已ニ収^散リテ後、将帥兵卒共ニ其體^{衣上}ヲ結^結タル
●戦血ヲ浣ヒ、戎衣ヲ釈キ、法服ヲ着ケ、神聖ノ
墳前ニ進ミ、涙ヲ流シテ、救主ノ墓^靈ニ對^對ヒ、以テ
親愛良善ナル^靈魂^明ヲ人間ニ賦與シタル、彼ノ渾
和^一ノ宗教ノ祖師ヲ崇拜ス、初メ、^{彼得}トルビヘ
ルメット法教ヲ^講キ、人心ヲ固結激動シテ、十字軍
ヲ起シ、軍ニ從テ、備サニ千辛万苦ヲ嘗メ、勝ニ乘
シテ、耶路撒冷ニ入リシ時、^{行脚僧}耶路撒冷ノ教徒ヘ
ルメットハ、貧窶ナル^{行脚僧}者ニシテ、嘗テ、土耳其ノ
暴政ヲ脱シテ、自由ヲ與ヘント、希望ノ約束シ

^{希望}ルモノナルヲ^起憶^起シ、熱心ナル衆庶相群集シ
テ、ソノ恩徳ヲ謝シ、ヘルメットノ足^下接^接シ伏シテ、
恩人ノ康福ヲ天ニ祈リ、千有餘^寺禮拜堂ヲ立テ、
ヘルメット、往年ノ勞ニ報ヒタリ、其後ヘルメットノ
^{行事}生涯ハ審カニ知ル能ハズ、
耶路撒冷、今ハ異教者ノ版圖ヲ脱スルニ至リ、遠
征ノ大業ソノ績ヲ^奏効シ、歐洲ノ封建政制波連斯^巴
坦ニ行ハレタリ、是ニ於テ、ホーロン侯、ゴットリイ
耶路撒冷ノ祖帝トナリ、一耶蘇王國ヲ創立シ、尔
来相踵ケテ、幾ンド一百年ノ東國ニハ、十字軍士

各々許多ノ小國ヲ創立シ、然レモ痛痛相問ハズ、
共ニ肥瘠ヲ傍觀シ、加ニナラス、外寇跋扈シテ、強
威ヲ逞ウシ、一國ヲ維テ、祚ヲ長ウスル、
一、刺サハ、耶路撒冷ノ王國モ十字軍士ノ故國ニ
歸リ、或ハ軍陣ニ死シタルニ因リ、一時ソノ護兵
三千人ニ下リ、ゴッドフリーノ王、権日々ニ衰微ニ
趨ム、然レモ、行脚僧ノ精神ハ、毫モ撓ムコトナシ、
初メ、第一、第二回ノ十字軍ニハ、五十万ノ人民、甲
冑ヲ被リ、干戈ヲ取り、各々数千ノ隊ヲ分ツテ、歐
洲ヨリ、西里亞ニ向テ進ミ、不幸ニシテ、過半ハ途

上ニ死ヒシタレド、ソノ幸ニ目途ヲ達シタルモ
、大ニ耶蘇教道ヲ保護シ、再タビ、波連斯坦ノ荒
野ニ殖民スルモノ、助成、第一、第二回
ノ十字軍合戦ノ時、耶路撒冷ニ於テ、勲爵士ノ階級
ヲ分テ、ニトナス、一ヲホスピタレ、負人旅客ヲ
ト曰ヒ、一ヲテムポラル、法學ト曰フ、此ニ級ノモ
ノ、勇氣大ニ世ノ為ニ稱セラル、傳ヘ、法フホス
ピタレ、ル毎夜篝火ヲ焚キ、以テ敵兵ノ來撃ニ備
ヘタリ、テテンプラル、ル戦装ヲナスベシトノ號令
ヲ聞ク時ハ、敵ノ兵數ヲ問フヲ恥キ、只敵ハ何ノ

ニ在リヤト問フノミナリ

クレルモントノ會議後幾ント二百年ノ間十字
軍士ノ耶路撒路ヲ守護セシ為ニ彼所ニ移住ス
ルモノ年々ニ増益シ六回ノ十字軍皆第一回ノ
舉動ニ倣ヒテ波連斯坦ノ危急方ニ迫ルニ因テ
激動セラルルカ如シ此六回ノ十字軍合戰其ノ原因
ト結果トシ同一ニシテ徒ニ初回ノ故轍ヲ襲フモ
ノナルガ故ニ我レ其冗語ヲ省キ之ヲ畧記セシ
耶路撒路降伏ノ後四十八年波連斯坦ニ在ル教
徒ノ城壘敵手ニ奪ハルニ因リ一十一百四十

第十回十字軍

七年日耳曼帝コンラツド及ビ佛蘭王路易第七
世第二回ノ十字軍ヲ起サント謀ル羅馬教皇ユ
ーゼニースモ亦ソノ謀ヲ賛成シ雄辯ナルセン
トヘルナルドヲ日耳曼佛蘭西ニ遣ハシソノ國
人ニ説諭スルニ十字架ノ緣由ヲ以ラス是ニ於
テコンラツド大軍ヲ率テ遠征ニ赴キシガソ
ノ軍多ク途ニ死ハシ十中ノ一ノミ西里亞ノ國
境ニ至リテ僅ニ七日佛蘭大軍ヲ敗ルニシテ十
ノ成日佛ノ二帝尚ホ衰殘ナル餘兵ヲ招集シ耶
蘇教徒ノ兵ト合從シテ共ニカマスカスヲ攻ム

大馬士革

第三回十字軍

コレ第二十字合戦ノ終ナリ

第二回十字合戦ノ後、四十年、埃及帝サラチン、耶路撒冷ヲ取り、威カラ波斯及ヒ西里亜ノ半ニ逞シウセリ、歐洲全國ノ人民、耶路撒路ヲ失フヲ聞キ大ニ歎惜驚愕シ、遠征ノ軍ヲ發シテ之ヲ恢復セント謀ル。佛蘭西、日耳曼、英倫ノ三國亦與カシ、佛帝非主、アウガスタス、日帝啡哩特バルバロツ、^{リキエ}英帝カ查第一世各自ニ本國ノ軍ヲ將シテ、第三回十字軍ニ從フ。既ニシテ、啡哩特、小亜細亞ノ曠原ニ於テ、^{スレキ}無刺比、^{スレキ}重ノ兵ト血戰シ、^{スレキ}オコントス河

ニ沐浴シ、誤ラ溺死シ、ソノ兵稍々減損シ、アサキヲクニ至ル。比ニ只一小隊ヲ餘ス、^法英佛アリ、^法アトルヲ圍ミ、十二月ヲ經テ、一千一百九十年、之ヲ拔キ、功績大ニ日帝ニ起シカ、^非車力查ノ兵権、^非遙ニ己ノ右ニ出ルヲ妬ミ、之ニ因リ、^非西帝文々、^非黎隙ヲ生シ、^非非立ハ愧々トシテ、本國ニ歸ル、カ查、^非アカスロンノ近傍ニ於テ、大戦シ、^非埃及帝サラチンヲ破リ、進シテ、耶路撒冷ニ突入シ、^非敵ノ請ニ依リ、^非三年、休戦ヲ許シ、^非一千一百九十三年、海ニ航シテ、ソノ本國ニ歸レリ。

第四回十字軍

第十三回、百年代ノ始ニ羅馬教皇、以シテセント
第三世歐洲人民ヲ煽動シテ、十字軍ヲ起ス。然レ
氏此時ハ、大國ノ君王、一モ此盟約ニ與カルモ
ノナク、只佛蘭西ノ諸侯ノミ、十字軍ノ旗幟ヲ掲
ケ、モントスラットノ侯、ホニヘースニ、軍事ヲ委シ、
ベネシア人ヲ傭ヒ、兵師及ヒ、糧食ヲ、パレスタイ
ニ運輸セシメ、之ニ約スルニ、ガルマシヤニ在
ル、ガラトノ市ヲ恢復シラ、ベネシア人ニ與フル
シ以テス、羅馬教皇、ソノ跋扈ヲ怒リ、寺法ヲ以テ
十字軍士ヲ罰セントス。然ルニ、十字軍ノ艦隊、
巴波

第五回十字軍

運斯坦ニ向テ進行ス。叛賊ヲ討滅スルヲ以テ、
實トシテ希臘帝國ニ向ヒ、終ニ君士坦丁堡ヲ取り、
希臘ノ殘賊ニ乘シテ、新ラテ即ハテ羅馬帝國ヲ
創立セリ。コレ一千二百四十年ノ事也。新帝國
ノ後相踵グテ、五十八年ニ迄ビ希臘人始メテ
ソノ國勢ヲ挽回スルヲ得タリ。蓋シ第四回十字
軍ハ、**波斯**ニ於テ、毫末ノ利益ヲモ成サザリ
シナリ。希臘帝國滅亡ノ後十四年始メテ、匈牙利王、ア
ドリウ、第五回十字軍ヲ起セリ。十字軍士、アクア

伐 韃 靼 攻

以テ波連斯坦ニ進ミ復タ耶路撒冷ヲ取レリ、
波連斯坦ノ形状此ノ如クナリ、
新王國亞細亞ノ北方ニ起リ、
世界ニ振動セタルハ、第十三回百年代ノ始ニ蒙古
種ノ一族成吉思汗、韃靼ノ曠原ヲ平畧シ、牧人田
夫ノ君主トナリ、又支那ニ侵襲シキリ、北方ノ
五州ヲ己ノ版圖ニ加ヘ七十万ノ驍將勇士ニ將
トシテ、波斯ノ帝國ヲ攻ム、成吉思汗死シ、其子ヲ
クラ一父ノ遺志ヲ継ギ、相踵テ、其元帥、ベート
ラシテ、兵ニ將トシテ、西伐セシム、ベートン、席卷

一ル近傍ニ滯留スル、暫時ニシテ、埃及ニ向テ
發艦シタミ、リタヲ取り、其他多少ノ功ヲ奏シ、
滅ヲ以テ遠征ノ結局ヲ遂ケタリ、ソノ後、頃
一千二百二十八年、日耳曼帝、
軍ニ將トシテ、波連斯坦ニ進ミ、又アクアールヲ
出テ、行ク、ナ数里ニシテ、耶路撒冷ニ至リ、
カメル、ト和親ノ條約ヲ交授シ、是ニ於テ、
撒冷及ヒ、波連斯坦ノ太半ハ、十字軍士ニ降レリ、
非哩特、テリッキノ歐洲ニ歸リシ後、土耳其帝カメル、
耶路撒冷ヲ恢復セシガ、教徒、再々新ニ精兵ヲ

ノ勢ヲ以テ東西ニ奔馳シ、ソノ軍旗ヲ全地球ニ
同圍四分ノ其一ニ翻揚シ、恣ニ侵入シ、境ニ入ルガカ
シ、帝國ノ地方ヲ横行シ、無^ル人ノ境ニ置^キソノ勢恠モ
激流奔騰シテ暴威ヲ歐洲未開ノ國民ニ逞^ラシ
魯西臣ノ大半ヲ殘威シ、古都ナル幾富新都ナル
莫斯科^{モスコウ}ノ灰燼ニ^シテ、波蘭ノ中央ニ侵入シ、日
耳曼ノ國境ニ進^ミ直ニ西方ニ轉遷シテ、匈牙利
ノ曠原ヲ^破署^ス不^レ既^ニシテ、波羅的海邊ノ國民皆
鞑^{タタール}鞑^{タタール}ノ猛士ノ來^リ尊^ニテ震懼^ス、日耳曼^{ドイツ}佛蘭西^{フランス}英倫^{イギリス}
及^ヒ、以太利共ニカヲ合^セテ、耶蘇王國ヲ守護セ

ント謀^リテ、適^ベトシ、及^ヒ、旗下五十万ノ
勇士、國君ノ訃音^ヲ獲^テ、軍ヲ本國ニ返^スキ會^ハ
リ時ニ一十二百四十五年ナリ、
許多^ク各種^ノ人民鞑^{タタール}鞑^{タタール}洪水^ノ漂^ハタル如ク、
國舊^ノ鞑^{タタール}ヲ逃走セシモノ、中ニ就^テコラスミン
スナルモノ、鞑^{タタール}鞑^{タタール}種ノ諸蠻民ト共ニ窮蹙シテ、波
斯ノ帝ニ投^ス後、コラスミンス、西^レ里^ア亞^ス及^ヒ、パ^レ勒^ス
士^ス登^グ、イ^ンツ^クノ暴亂^ス、土耳其人猶太教、耶蘇教徒ヲ
擇^ハズ、之ニ抗^スルモノ、^テ不^レ盡^ク誅殺シテ、遺^ス
テ、^テ茲ニ住^スル人民悉ク

刀戟ノ下ニ死ス然レモ土耳其人耶蘇教徒トカ
ヲ戮セテコラスミンスヲ破リ波連斯坦ヲ困難
災厄ノ中ニ濟ヒタリ

第六回十
十字軍

コラスミンスノ波連斯坦ヲ侵掠スルニ因リ第
六回ノ十字軍起ル佛王路易第九世之ガ將トナ
リ先ツ埃及ヲ攻メ始メ少シク勝利ヲ獲シガ
終ニ擊破セラレ疾ニ罹リ擒ニセラレ莫大ニ
賸金ヲ出シテソノ生命ヲ買フ時ニ一千二百五
十年ナリ其後二十年佛王路易復々十字軍ヲ起
ス是ヲ耶路撒冷恢復ノ舉動トス路易ノ

撒再的尼亞

軍艦サルガニアニ至リ逆風ノ為ニ進ムヲ得ズ
遂ニ意ヲ變シ亞非利加ノ摩羅人ヲ攻メント決策
シ進シテカハ多額ノ近岸ニ上陸シカハ多額
シヲ取リシガ不幸ニシテ路易及ヒ軍士トナ
ハ疫癘ニ罹リ遠征ノ業ヲ成ラズ止ム
是ヨリ後東國ノ耶蘇教徒ノ運命日々ニ衰頹シ
千二百九十一年ニ至リ土耳其ノ軍二十万人
十字軍士ノ居城ナル波連斯坦ニ在ルアカ
川ノ城前ニ迫リ之ヲ圍ムト連月アカアル終
ニ被落シ西里ヤニ在ル耶蘇教ノ権カ地ニ墜千

予迹ヲ遺ナルニ至ル初ノ十字軍ノ起リシ時
ヨリ此時ニ至ル迄殆ント二百年歐洲二百万ノ
生靈ソノ墳塋ヲ東國ニ遺セシガ其遠征徒勞ニ
屬シテ秋毫モ功績ヲ奏セズ亦當時ノ人民宗教
ノ旨ニ違ハズ徒ニ熱心ヲ執ル其愚也
ハキニアラズヤ我レ次章ニ於テ十字軍ガ如何ナ
ル結果ヲ歐洲全向ニ遺セシヤヲ説明セントス

第三章

英國ノ記死亞弗勒

亞弗勒死後ノ英國史

我前ニ英國ノ歴史ニ於テ英國其創業者ナル亞
弗勒大帝ノ國光ヲ與ヘタル所以ヲ記セリ今我
中古ノ時代ニ至リ聊カ英國ノ事跡
ヲ簡明切實ニ記述シ以テ亞弗勒ノ後ニ繼ント
ス

紀元後九百一十年亞弗勒ノ死後英倫尚連馬ノ來
寇ヲ被リ且ツ國政混淆シテ全寫頗ル殘暴騷亂
ヲ極ム蓋シ亞弗勒ニ繼テ王タルモノ八人アリ
其歴史ハ皆方今ノ學者ニ緊切ナルモノナリ

獨リ八王ノ末ナルエセルレツド第二世ノ時ニ連
王スウエ^ル連馬及ビ那威ノ兵ヲ率テ英國ヲ
攻ラ其太半ヲ取ルエセルレツド^{以陽勒}スウエ
賂遺シテ休戰ヲ買ヒケレ^ススウエ^瑞スウエ^瑞スウエ^瑞
ナク已ノ欲スル所ノモ^瑞得テ國ニ歸^リエ
セルレツド資質怯懦ニシテ且殘忍ナリ嘗テ令ヲ
下シテ^{以陽勒}盡ク連人ノ撒遜國中ニ在ルモノヲ廢殺
殺セシム是ニ由ラ英國ノ貴族皆其暴戾ヲ怒リ
アセルレツド^{以陽勒}叛キ帝位ヲスウエ^瑞ニ上^ルエセ
ルレツド^{以陽勒}恐懼シ^テ諾曼侯^カ查^イ朝^ニ道^ル但^シカ查^イ

婦ハエセルレツドノ妹ナリ^瑞一千十四年スウエ^瑞
ニ死シ連兵^英ニ在ルモノスウエ^瑞ノ子^加紐^ヲ立
テ^{以陽勒}嗣^トナセ^リハ^{以陽勒}撒^遜ノ首長^又心ヲ變シテエセ
ルレツドヲ迎フエセルレツド^{以陽勒}死シ英國人民^甲兵^ト
喚做セル^{以陽勒}豪俠勇猛ナルエドマントラ立テ王トナ
ス一千十六年エドマント没シ^{以陽勒}數月^後加^紐前
約ヲ踏^テ終ニ^{以陽勒}英倫全國ノ君主トナレリ
加^紐當時^{以陽勒}強ノ君主ニシテ大帝^ト稱^ステ^{以陽勒}エ
セルレツド^{以陽勒}寡婦エムマヲ娶リテ不列顛人ト和
シ諾曼ノ舊怨ヲ解キ又女ヲ英^ノ高^的温^ニ

與之ヲ平部ニ屬セシム下ス一千二十五年加紐瑞
典ヲ降ハ後ニ二年ハ後那威ヲ取ル一千三十六年
十一月加紐噠馬瑞典那威英倫ノ諸大國ヲ其諸
子ニ分與ス既レ没ス加紐初メ政ヲ行フ太カ殘暴
ナリシガ次第ニ舊野蠻ノ陋習ヲ脱シ耶蘇教
ヲ奉リ文學技藝ヲ奨勵シ善良ナル法律ヲ設ケ
テ己ノ從者ナル安各羅撒遜人ヲ保護セリ
加紐死セシ後其二子ハロレド及ヒハ底加紐カニ
ト相繼テ英國ヲ統治ス然ルニ一千四十一年
ハ陽勒ハ正セルレドノ幼子義德瓦立テ王トナル義德瓦

諾曼人ヲ寵シ之ヲ偏愛スル情モ非スト雖
性太ダ温良ナルニ由リ大ニ其撒遜從士ノ
心ヲ得タリ然レ氏義德瓦世ヲ治ムル一二十五
年間ニゴッドウイン侯叛ヲ作シテ國內動搖シ
或ハ威勒士蘇格ノ兩國ト葛藤ヲ生シ或ハ繼嗣
定立ノ爭論等アリテ大ニ其榮譽ヲ墮セリ一千
六十六年義德瓦没ス其年九月ゴッドウインノ子ハ
ロルド其弟トスチグト位ヲ爭ヒ之ヲ勝テ王ト
ナリシガ終ニ三日ニシテ諾曼的侯維廉亦先帝
ノ遺詔ヲ受クルト稱シ王位ヲ得ント欲シ六萬

諾曼勝利

ノ兵二將トシテ、サセックスニ着岸シ、十月十四日、
 ハロルドトハスナングスニ於テ於キ若戰シ、ハロ
 ルト敗リ、死ス。英兵盡ク逃走シ、撒遜王統是ニ
 於テ斷ズ。此役、諾曼ノ兵死スルモノ唯ガ四分
 ノ一ニシテ、維廉己ニ大勝ヲ得、征服者ノ名ヲ受
 ク。史氏又維廉ノ英國ヲ服従スルヲ示シテ、諾曼ノ
 勝利ト云フ。
 然レ、此諾曼勝利ハ急ニ其功ヲ奏セズ。ハスナ
 ングスノ役、維廉終ニ英國ノ四分ノ一ヲ得
 ルノミニシテ、其西東北三面ヲ服従スルハ、爾來七

薩塞

哈斯丁

戰

ハスナングス

南面

年ノ星霜ヲ費セ、維廉己ニ英國ヲ從ハ、其人民
 シ以テ叛民トナシ、コレガ土地ヲ奪テ、己ノ諾曼
 人民ニ分與ス。蓋シ今日英國貴族ノ名爵封邑ハ、
 是時ニ根ヲスト云フ。獨リ、撒遜北部ノ人民、抗戰屈
 セス。維廉其壯烈ニシテ、且頑固ナルヲ惡ミ、到ル
 處、廬舎ヲ焚キ、人民ヲ殺シ、以テ全國ヲ殘暴ス。是
 ニ由テ、人跡盡ク絶エ、叛乱ノ勢始メテ鎮定スル
 ニ至レリ。
 封建政制ノ基礎、諾曼勝利ノ前、己ニ英倫ニ定立
 スレ、實ハ維廉ノ英國ヲ讓曼ノ臣隸ニ分與セ

至

定

我

屈

諾

讓

シ時ヨリ其政制當時ノ歐洲大陸ニ行ハル、
完全ノ状ヲ成シタルナリ、維廉借地法ヲ施行
セシト欲シ、國中ノ土地ヲ測量シ、其事情ヲ細記
シテ審問簿ヲ編、^以其書今ニ傳ハレリ、維廉政ヲ
行ナフ、苛刻ニシテ安各羅撒遜ノ人民ヲ禽^{牛馬}
使シ、撒遜語ヲ以テ侏儻ノ蠻語ト稱シ、諾曼佛蘭
西語ヲ以テ國中一般ノ通語トナセリ、
一千八十七年維廉死シ、其次子^{ウイリアム}ル
ハス兄^{羅伯}ロヘルトノ諾曼ニ在ルニ乘シテ王位ヲ
奪フ蓋シルーハス及ビ嗣王顯理第一世ノ世ハ

重要ナル事跡ノ以テ記ス^{ハキモ}ナシ、要
スルニ其政治酷忍ニシテ邦國ヲ塗炭ニ陥イル
モノナリ、舊時撒遜史氏曰ク、ルーハス國人ノ誹
議ヲ拓キ神明ノ憤怒ヲ来スト、又曰ク、顯理手ニ
刑政ヲ握テ、歲入ノ一基源トナシ、人ヲ拷殺スル
ヲ以テ、責求ノ好器^械トナセリト、^額
顯理撒遜侯ノ女ヲ娶リテ、一女子^チマケルダラ生ミ、
王位ヲ之ニ讓ラント欲セシガ、其甥^{士提反}スラヘン、顯
理ノ死ニ乘ジテ直ニ王位ヲ奪ヒ、顯理ノ素謀ヲ
破却ス、コレヨリ内乱羽障ヲ止マス、終ニ全國大

議會ヲ起シ、衆議ニ由リ、ステヘンヲ以テ王トナ

シ、頭理ヲ以テ其嗣子トナス、其後一年、狂暴刻

ナル、ステヘン、没シ、頭理第一世、英王ノ位ニ登リ、

北北亞亞木木日日本本ヲ以テ、

頭理、諾曼的侯國ノ外ニ、佛蘭西西北部ノ肥饒ナ

ル州郡ヲ領シ、東ニ加フルニ、其英領ヲ以テ、水

手耶蘇教王國中、至至富富強強ノ君主トナル、愛爾蘭

ノ剽服剽服ハ、後是後四十年、後レ、頭理、此時已

ニ之ヲ屬國トシ、王領ニ加ヘリ、頭理、政ヲ為ス

「明察公平ニシテ、大ニ人民ノ心ヲ得タリ、然レ

愛爾蘭
服従

氏宗教ノ事件ニ関シ、長ク羅馬教皇ト闘ヒ、且諸

公子母氏母氏一為一、後、後、佛王、路易第七世ノ

助ヲ以テ、教、教ヲ企テ、頭理ニ抗シ、内訌相繼テ

絶ヘズ、邦國為ニ禍ヲ被マル、多シ、一千一百ハ

十九年、頭理終ニ精神惑乱シテ、没ス、世ヲ治ムル

「三十三年、

頭理死シ、其長子、カ查位カ查位ニ嗣カ、カ查、勇猛

世、喚喚ニ猪猪心心ト稱稱ス、即位ノ初メ、首トシテ、許多ノ

金額ヲ臣民ニ課シ、十字軍ヲ起シテ、耶路撒冷ニ

向フ、已ニシテ、頭理、武功ヲ奏シ、威名ヲ全世界ニ

士提反

法

愛爾蘭
アイラランド

事^カ本國ニ歸^航シト以^ハ海上^航セシ時^暴風
ニ遇^レシ舟艦破碎ス、因^テ微服シテ日耳曼ヲ過ギ
シガ忽^チ發覺シ、捕^ハレテ牢獄ニ幽閉セラル、國
民因^テ莫大ノ贖金ヲ出シ、其生命ヲ買フ、蓋シ頭
理ハ有名ナル一依士ニシテ、大ニ波^連斯坦ニ功
業ヲ著セ氏秋毫ノ利益^モ英國^ニ效^ササルナ
リ

一千一百九十九年、カ查死シ、其弟約翰、位ヲ継ガ、
約翰^佛王^法、^{ヒュ}ル^ッフ^ポ、^アウ^ガス^タスト、戰^フテ連年多
ク大陸中ノ所有地ヲ失ヒ、又寺院ノ貨財ヲ拵勒

シテ羅馬教皇ノ怒^ニ觸^ル、約翰^百方^其怒ヲ解シ
ト^スレ^氏取^テ聽^カザルニ由リ、畏縮遠巡シテ、
其命ニ從ヒ、王國ヲ以テ法領ニ供スルヲ約ス、國
中ノ貴族又約翰ノ辱制苛法ヲ怒リ、共ニ兵ヲ舉
テ王ニ叛シ、攻^テ龍^動ヲ^隔ル、遂ニ王ニ迫^リ、^時一^千
二百十五年六月十九日^連塞^河上^{ラン}ニ^ノ
ド^ニ於^テマ^ガナ^{カル}タ^レ、法^ヲ定^ム、^國王^ノ特^推
テ限制シ、人民ノ權利ヲ伸張シ、後^世英國憲章ノ
根^本ト^シ、^己ニ^シテ約翰大ニ之ヲ悔ヒ、羅馬教
皇ノ免許ヲ受ケ、此法ヲ破壊セント欲シ、兵ヲ別

耳曼ニ慕リ、之ヲ率キテ、王國全地ヲ廢制セント
ス、然ルニ、佛王、ヒリッポ、アウガス、タス、ノ長子、路易、
英ノ王位ヲ期望シ、兵ニ將トシテ來ルヲ見テ、英ノ
貴族、奉テ之ニ從ハントセシガ、約翰、邊ニ病ト罹
ト歿スルニ遇テ、其事遂ニ止ミ、英倫、幸ニ佛ノ版
圖ニ入ルヲ免レタリ、
約翰ノ死ニ及ンテ、貴族及ヒ人民、其長子、頭理第
三世ヲ尊シテ、エトナス、頭理、性軟弱、割輕、位ニ在
ル、五十有餘歲、放逸ニ耽リ、嬖人権ヲ弄シ、貢賦
ヲ重クシ、マカナカルタノ法ニ反シテ、人民ノ権

利ヲ犯スニ由リ、國內騷擾シ、貴族再々ヒ王ニ抗
シ、議會ヲ開キ、衆議ヲ以テ、王ヲ廢ス、已ニシテ、王
其権柄ヲ復セント欲シ、争亂再々ヒ起ル、貴族諸
都府市邑ノ委員ヲ招集シ、復議會ヲ開ク、其後貴
族モ亦廢制ヲ以テ、王ノ覆轍ヲ襲フニ至レ、其
制定シタル新律ハ、後來英國國民選議院ノ基礎ト
ナリ、
頭理ノ死スル時、其子、義德、第一世、十字軍ニ從
ヒ、撒路撒冷ニ在リ、已ニシテ、位ヲ襲キ、九年ノ間、
能ク精ヲ勵シ、治ヲ求人、後人稱シテ、文武兼備ノ

威勒士ノ
服従

君主ト為ス、義徳尾常ニ英全國ヲ一君權ノ下ニ
帰セルヲ以テ、一生ノ大目途トナシ、嘗テ威勒士
侯、ロルレーン、王命ヲ奉セザルニ由リ、義徳尾兵
ヲ加ハテ、威勒士國ヲ撃テ、苦戦シテ之ヲ服従ス。
義徳尾末年、蘇國主宰ノ名ヲ求メ、蘇國ヲ以テ、居
國トセントスルノ策ヲ事トセリ、初メ、頭理第五
世、蘇王ヲ擒ニセシ時、英國ニ附属スルノ約ヲ
以テ之ヲ赦シ、爾後歴代ノ蘇王、其封邑ヲ英國ニ
受ルヲ以テ、前約ヲ奉セシガ、一千二百八十三年、
蘇王歴散得^{アレキサンドル}第五^{三世}死シ、王位ハ其孫女即^ル英王

義徳尾第一世ノ姪、マルガレット^{馬加利達}、其後、
幾ナラザルニ嫁シ、英蘇二國將サニ合一セント
シ、狀ニ在リ、ヤシガ、マルガレットノ夭死スルニ
會シ、其事頓ニ止ム、
蘇ノニ王、ジョン、バリヲル、又ビ、^相相^バ相^リ立^シ、^ヨヨ^ン争^ヒセ、裁決ヲ義徳尾ニ仰ク、義徳
尾意ヲバ^リバ^リヨルニ傾ケ、之ヲ以テ王トナシ、英ノ
属國タラシム、然ルニバ^リバ^リヨル性太ク、割^キ割^キニシ
テ、役^ノ属^ノ勞^ニ堪^ユル能^ハズ、^イイ^キ後^ハ英^法戦^ヲ構^フ

蘇格戦

ルニ及シテ、巴^リリナル兵ヲ出シテ、英^王戰事^ニ役スル
ヲ拒ミ却テ、^王王ト和シ、之ガ助ヲナス是ニ於テ
英蘇ノ間復タ葛藤ヲ生シ、^巴バ^リリナル苦戰數度遂
ニダンバルノ役ト大敗シ、卑詞ヲ以テ降ヲ義德
尾乞フ義德尾是ニ於テ蘇國ノ王冠ヲ^戴戴シ
得ルノミナラズ、蘇國歴代ノ君主即位ノ時^御御
所ノ神石ヲ獲テ、龍動ニ歸ル、
義德尾兵ヲ返シ、未ダ蘇國ノ境界ヲ離レザルニ
早已ニ蘇人ハ獨立^ノノ状ヲナシ、愛國者ノ巨擘^トト
モ謂ハルヘキ一處士、ウイリアム、ワルレー、ス、兵

ヲ起シテ、英人ヲステルリシガ、^追追^撃之^ヲ敗リ、一瞬ノ間
蘇全國ヲ^恢恢復ス、義德尾之ヲ聞テ、再々ヒ、國中
ノ壯士ヲ招募シ、以テ蘇人ヲハルキルクニ撃破
ス時ニ一十二百九十八年ナリ、其後數年、^瓦瓦^拉ス
トス、^蘇蘇^叛叛^ニ英ニ内應スルモノアリ、^瓦瓦^拉ス
レトス、為ニ生擒セラレ、大逆無道ノ罪名ヲ以テ
斬ニ處セラル、是レ英^王王^ノ千載ノ汚名ナリ、^巴巴^里ガ
蘇人ノ自由ハ、先年^巴巴^里王位ヲ爭ヒタル、
ブルトスノ孫、^羅羅^伯布魯斯、^ガガ^ルトスニ因テ、恢復セ
ラレタリ、一千三百六年春、貴族叛ヲ作シ、^ママ^コ

リシニ於テ、^{布魯斯}ブルトスヲ推テ、王トナス、其明年義
德尾叛^の黨ヲ一戰ノ下ニ塵殺セント欲シ、大軍ニ
將トシテ、^{布魯斯}ブルトスニ向テ進ニシカ、道ニシテ病
死ス、其世子、義德尾第二世父ノ遺詔ニ、^奉奉セズ、^違違
征ヲ罷ム、サレド、戰鬥猶ホ余ク止マズ、蘇兵常ニ
勝ヲ取ル、ソノ後、七年、義德尾自ニ十萬ノ大軍ニ
將トシテ進ム、^{布魯斯}ブルトス僅ニ三方^兵討人、一軍^軍以
テ^激激シテ^撃撃テ、大ニ^{義德尾}義德尾ヲ^ババ^ンンノク^ホホ^ルルニ^敗敗ル
蘇國此時ヲ以テ、獨立國トナル、實ニ一千三百十
四年六月第二十四日ナリ

第十四百年代ヨリ降テ、第十三回百年代ニ至ル
マテ、^歐歐洲北部ノ人民、開化ノ度ニ於テハ、羅馬帝
國滅後ノ人民ニ比スレハ、一步ヲ讓^レレ^リ如^レ而^シ
メ、此年^代ノ歴史、我輩ノ目ニ觸ルモノハ、野蠻
王国ノ四方ニ創立スルアルノミ、又歐洲西南部
ニ於テハ、西班牙半島ノ嚆囉人、耶穌教徒ト戰鬥
ニ從事シ、五百年間、迭ニ勝敗アリ、然レド、^哥哥^再再^多多^年年
ドバ、西回教王国顛滅シ、尋テ、西班牙帝國分裂
シテ、數多ノ小獨立國トナリシハ、實ニ回教帝國
ノ大不幸ナリ、耶穌教國ノ王侯亦一和セス、迭ニ

争亂ヲ生シ、常ニ助ヲ嚙囉人ニ乞フハ、其不幸ト
謂フヘシ、一千二百三十八年、格拉ナダ王国ノ創
立ハ、一時回教ノ衰運ヲ挽回スルニ似テ、
蘇教ノ勢力愈々隆盛ニ趨キ、一千四百年代ニ至
テ、格拉ナダ國滅亡シ、耶蘇教ノ信心ト其権勢ハ、
西班牙全半篤ニ遍キニ至ル





